

課 題 耐暑性品種を用いた夏季キャベツ出荷時期の拡大

担 当 者 石井 大樹

目 的 キャベツは1年を通し消費されるため、周年での生産が求められている。県内での夏季キャベツの生産がなく、冷涼地の県外産の需要で対応している。また、直売所において、夏季の7月・8月は県内産キャベツの取り扱いはなく、高単価で販売されることが予想される。

そこで、出荷時期拡大及び農家所得向上のために、7月から8月で収穫可能なキャベツについて、品種比較による優良品種を選抜する。

供 試 品 種 秋徳 SP、若峰（タキイ種苗）  
YR 愛藍（トキタ種苗）  
いしずえ（野崎のたね）

試 験 区 構 成

1 区	播種	4 月上旬
	定植	5 月 10 日
	収穫	7 月 17 日
2 区	播種	4 月中旬
	定植	5 月 22 日
	収穫	7 月 31 日
3 区	播種	4 月下旬
	定植	5 月 31 日
	収穫	8 月 7 日
4 区	播種	5 月上旬
	定植	6 月 10 日
	収穫	8 月 14 日

区 制 及 び 株 数 1 区制 1 区 15 株

耕 種 概 要

栽培条件	露地
播 種	試験区構成のとおり
定 植	試験区構成のとおり
栽植密度	畝幅 150cm×株間 40cm×条間 45cm×条数 2 条 330 株/a
施 肥 量	元 肥 堆肥 200kg/a
	有機石灰 15kg/a
	苦土・有機入り複合 A801T 号 15kg/a
	ようりん 4kg/a
	追 肥 くみあい苦土ほう素入り複合硝加磷安 604 4 kg/a
	成分量 N1.8-P2.4-K1.8 kg/a
収 穫	試験区構成のとおり

## 結果及び考察

1 区の結果は表 1 に示した。総収量における個数はいしずえが少なく、他の品種ではほとんどすべて収穫できた。重量は秋穂 SP が 1.24 kg で最も軽く、若峰、YR 愛藍、いしずえの順に重かった。可販収量における個数は若峰、YR 愛藍が多く、重量は総収量における重量と同じ順番であった。秀品率は若峰 72.2%、YR 愛藍 73.7% で高く、秋穂 SP 44.4%、いしずえ 46.7% と低い値を示した。

2 区の結果は表 2 に示した。2 区は根こぶ病が多発し、結球しない株が多かった。総収量における個数はどの品種もほとんど収穫できた。重量は秋穂 SP が 0.41 kg で最も軽く、若峰が 0.90 と最も重かった。可販収量における個数は根こぶ病の影響でどの品種もほとんど収穫できなかった。そのた秀品率もかなり低い結果であった

3 区の結果は表 3 に示した。総収量における個数はほぼ同じであった。重量はいしずえが最も軽く、秋穂 SP が 1.16 kg と最も重かった。可販収量における個数は YR 愛藍が最少なく、秋穂 SP が 11 個と最も多かった。重量は品湯かんでほとんど変わらなかった。

4 区の結果は表 4 に示した。総収量における個数は品種間で大きく変わらなかった。重量はいしずえ 0.54 kg で最も軽く、若峰が 0.77 で最も重かった。可販収量における個数は秋穂 SP のみ 1 個あり、重さは 0.65 kg であった。

今回使用した供試品種の中では秋穂 SP が高温期となる 3 区、4 区での秀品率が高い結果となった。ただし、ほかの品種に比べ、玉が小さいという点があるため、次に秀品率の高く大きい若峰が有望であると考えられる。ただし、本試験ではアブラムシによる虫害、根こぶ病などの要因により、正確な結果を出すことができなかった。また、栽培期間が遅い 3 区 4 区では、葉が枯れる、腐る株の数が増加していた。以上の結果から、虫害の対策はもとより、高温期に発生しやすい病害に対しての防除、対策が必要になってくると考えられる。耐暑性を持つ品種の利用はもちろん、畝周りの除草、農薬の散布回数を増やすことなどが挙げられる。現在、当地で栽培される作型である秋どり、春どりに比べて夏季の栽培は労力と栽培技術が必要と考えられた。

表1 1区の収穫調査結果

品種	総収量		可販収量		秀品率(%) ※
	個数	重量(kg)	個数	重量(kg)	
秋穂SP	18	1.24	8	1.01	44.4
若峰	18	1.89	13	1.19	72.2
YR愛藍	19	2.37	14	1.49	73.7
いしずえ	15	2.90	7	2.38	46.7

※アブラムシによる被害が供試株の多数を占めてしまったため、虫害を除いて算出した

表2 2区の収穫調査結果

品種	総収量		可販収量		秀品率(%) ※
	個数	重量(kg)	個数	重量(kg)	
秋穂SP	19	0.41	0		0.0
若峰	18	0.90	5	0.60	27.8
YR愛藍	19	0.57	0		0.0
いしずえ	19	0.83	1	0.55	5.3

※アブラムシによる被害が供試株の多数を占めてしまったため、虫害を除いて算出した

表3 3区の収穫調査結果

品種	総収量		可販収量		秀品率(%) ※
	個数	重量(kg)	個数	重量(kg)	
秋穂SP	18	1.16	11	0.71	61.1
若峰	18	0.96	3	0.70	16.7
YR愛藍	19	0.67	1	0.76	5.3
いしずえ	19	0.62	3	0.69	15.8

※アブラムシによる被害が供試株の多数を占めてしまったため、虫害を除いて算出した

表4 4区の収穫調査結果

品種	総収量		可販収量		秀品率(%) ※
	個数	重量(kg)	個数	重量(kg)	
秋穂SP	19	0.76	1	0.65	5.3
若峰	18	0.77	0		0
YR愛藍	19	0.66	0		0
いしずえ	19	0.54	0		0

※アブラムシによる被害が供試株の多数を占めてしまったため、虫害を除いて算出した